

10月は乳がん検診を推進する「ピンクリボン月間」です

Pink Ribbon
KYOTO

～ 自分自身のため、大切な人のため 受診する勇気 ～

乳がんは女性が一生のうちで1番かかりやすいがんで、日本人女性の14人に1人がかかると言われています。市が実施する乳がん検診でも、平成21年度～25年度の5年間で79人の方ががんが発見されました。乳がんの早期発見のためには、乳がん検診を定期的に受けることが大切ですが、平成25年度の検診受診率は30.4%と3人に1人しか受けていないのが現状です。「マンモグラフィー検査は痛いのでは？」などの不安から、なかなか検診を受けられずにいる人もいるのではないのでしょうか。そこで、40歳代で初めて乳がん検診を受診された方と、日頃から乳がん検診に携わっておられる医師にお話を伺いました。

40歳代で初めて受けられた方の声

5年前に他市で受診して以来受けておらず、不安になって市に問い合わせ受診しました。

以前受診したときのイメージが強く、検診前は身構えていましたが、痛みは全くなく、検査もスムーズに終わって苦痛は全然なかったです。

先生からマンモグラフィーの画像を見せてもらいましたが分かりやすく説明してもらいました。がんを2年放っておくと、がんも成長すると聞き、定期検診の大切さやがんに対する危機感も感じました。定期検診は必ず受けたいと思います。(Aさん)

友人が乳がんになったことと、無料クーポン券が届いたので受診しました。

乳がん検診は「痛い」と聞いていて、実際「痛い」と思いましたが、乳がんと診断されて目の前が真っ暗になった友人のことを思ったら、片方10秒くらいの痛さは我慢できました。

先生からは、自己検診の必要性や方法、定期検診の必要性を説明してもらいました。

クーポン券があれば無料で検診を受けられるのに、なぜ受診者数が低いのだろうと思います。友人も初期の段階で見つけてもらっていたので、目の前が真っ暗になる体験をする前に、受診することが良いと思います。(Bさん)

自分の周りに乳がんになった人がいたこと、年齢的にも気になっていたときに、ちょうど無料クーポン券が届いたので受けました。

検査は、どうやって乳房を挟むのかや視触診の方法が分からず緊張しました。でも、女性の技師の方が丁寧に教えてくれて、痛みも我慢できる痛さだったので、このくらいなら2年後また受けようかと思えました。

先生からは「今日のところは大丈夫」と言われました。だけど、がん細胞はあるかもしれないし、2年後にはそれが大きくなるかもしれないので、毎月の自己検診とその方法、そして、検診を2年に1回受けることを直接教えてもらえてよかったです。(Cさん)

医師からのメッセージ

医療法人虹樹会 おおえ乳腺クリニック 院長 大江 信哉さん

今年も7月から舞鶴市の乳がん検診が始まっています。この2年間で乳がん検診を受診される方が徐々に減少しています。40歳になって初めて受診して以来受けていない方や、節目の年だけ受ければ良いと思っておられる方が多いかもしれませんが、それはあまり有意義ではありません。

乳がん細胞は、直径1mmの乳がんの中に約10億個いると考えられます。10億個の100分の1は1,000万個ですが、仮に乳房の中に1,000万個のがん細胞がすでにできていても大ききさとしては直径2mmにも満たないので、マンモグラフィーでも見えないし、もちろん視触診でも全く触れません。しかし、それを2年間、自己検診もしないで放置すると、直径2mm程に成長することがあり、2年後の検診で発見されることになります。この段階で発見されれば約8割の方は治りますが、これをさらに1年間放置してしまうと、乳がんはさらに成長するため、治る確率は50%程度になってしまうこともあります。乳がんのほとんどは痛みがないため、自己検診をしないと直径が2mmくらいに育っても全く分からないことが多いのです。

こんなことにならないようにするために、また、乳がんから自分の命を守ろうと考えるのであれば、月に1度の定期的な自己検診と2年に1回のマンモグラフィー検診を継続的に受けることです。

自分自身のため、大切な家族のために、ぜひ乳がん検診を継続して受けてください。

乳がん検診 実施中です【来年2月28日(土)まで】

< 場所 >

おおえ乳腺クリニック、鳥井医院、舞鶴医療センター、舞鶴共済病院、舞鶴赤十字病院 (50音順)

< 内容 >

視触診、マンモグラフィー検査、問診

< 対象 >

40歳以上の女性 (昭和50年3月31日以前生まれ)

< 料金 >

1,500円。ただしクーポン券対象者は無料 (7月に送付済み)

< その他 >

2年に1回の検診のため、25年度に受診された人は、27年度に申し込みを。

< 申し込み方法・問い合わせ >

電話で保健センター (☎65・0065) へ。

▶ 原子力防災訓練を実施

8月31日、原子力防災訓練を実施し、松尾・杉山・野原地区の皆さんが避難の手順を確認しました。

また、高浜町にあるオフサイトセンターに市職員を派遣。当市や関係機関などによる連絡調整や情報伝達の訓練も行いました。



①オフサイトセンターでの訓練の様子 ②野原地区の皆さんによる避難訓練の様子



▶ 城北中学校で給食が始まる

9月16日から、城北中学校で給食が始まり、生徒たちは笑顔で給食を味わいました。

また、10月23日には城南中学校で給食が開始。これで市内全中学校での給食が実施されることになります。



①笑顔で給食を食べる生徒たち
②給食を配膳室から教室へ運ぶ

全国大会出場者を紹介

- ☆西日本学童軟式野球大会 (8月2日～6日、福岡県 小宮山龍太、白川駿、高橋颯汰、西垣怜、松岡伶士 (以上中舞鶴小6年)、江上彰宏、川勝大輝、田村俊介、藤田有也、山口修歩 (以上中舞鶴小5年)、黒木修、小山駿裕、中村元輝 (以上中舞鶴小4年)、谷口雄星、吉住拓真、横井翔 (中舞鶴小3年))
- ☆全国高等学校総合体育大会競泳競技 (8月17日～20日、千葉県 越後智行 (西舞鶴高2年))
- ☆全日本レディスソフトテニス決勝大会 (8月19日～21日、岩手県 打和久美子 (瀧尻中町)、小川桂子 (瀧尻中町)、神社純子 (南浜町)、野田沙莉 (七日市))
- ☆全日本中学校バレーボール選手権大会 (8月22日～25日、高知県 大江ひかり (就実中3年)、池内小出身、三好真由 (就実中1年)、新舞鶴小出身)
- ☆全日本社会人ソフトテニス選手権大会 (9月6日～7日、京都府 小川桂子 (瀧尻中町)、神社彩加 (南浜町)、野田沙莉 (七日市)、福島篤史 (七日市))
- ☆日本学生トリアスロン選手権大会 (9月7日、香川県 山下陽裕 (立教大3年)、白糸中出身)
- ☆全日本レディスソフトボール大会 (9月12日～14日、秋田県 上原明佳 (下福井)、永谷奈央 (天台)、高橋夕子 (余部)、納谷優衣 (安岡))
- ☆全日本ジュニアバドミントン選手権大会 (9月12日～15日、高知県 柏原彪吾 (城北中2年)、高口瑛朗 (加佐中2年))
- ☆日本スポーツマスターズ (9月19日～23日、埼玉県) ◆ソフトボール競技: 片山奉和 (行永)、神内敏郎 (公文名)、富田毅 (公文名)、藤村保夫 (行永核通り) ◆空手道競技: 内田慎一郎 (境合) ◆バスケットボール競技: 表良一 (白滝)
- ☆全日本シニアソフトボール大会 (9月27日～29日、岐阜県 生田勝美 (竹屋)、井澤明生、植田和男 (以上公文名)、櫻井良 (余部上)、柴田政善 (寺内)、志馬義高 (愛宕浜町)、長澤節夫 (余部下)、桒村房生 (白浜台)、平野太一 (引土)、藤山豊一 (喜多)
- ☆国民体育大会夏季大会 (10月12日～22日、長崎県) ◆トリアスロン競技: 山下陽裕 (立教大3年、白糸中出身) ◆ウエイトリフティング競技: 高井啓亮 (京都産業大2年)、城北中出身、瀬野郁希 (九州国際大1年、白糸中出身)
- ☆全日本卓球選手権大会マスターズの部 (10月24日～26日、岩手県 赤尾正夫 (八反田北町)、新妻四郎伊佐津、竹内俊夫 (七日市)、時岡重信 (南田辺))